

第 43 回日本皮膚科學會岡山地方會演說抄録

昭和 14 年 12 月 24 日一於岡山醫科大學皮膚科泌尿器科外來

再び陰莖結核疹に就て

下 村 利 雄 (岡大皮)

第 I 例： 森口某，29 歳，合併症： 陰莖成形性硬結，結節狀結核性靜脈炎並に結核性精囊炎。
 第 II 例： 飯田某，39 歳，合併症： 陰莖成形性硬結並に結核性右側副睪丸炎。第 III 例： 越澤某，31 歳，合併症： 丘疹性壞疽性結核疹並に潜伏梅毒。第 IV 例： 富山某，42 歳，爾餘結核疹の合併なし。以上 4 例に於て陰莖結核疹の發生部位は何れも龜頭珠に龜頭冠にして Pirquet 反應は何れも中等度陽性。第 I 例に於ては陰莖切斷術を施行，組織學的には連續切片により成形性硬結と結核疹とは明かに 1 つの連續せる tuberkulöse Infiltration なることが認められるのみならず，又古い結核疹に於ても所々に Tuberkel と考へられる細胞浸潤を見る。第 IV 例に於ては atypisch の Tuberkel を見るに過ぎず。尙ほ第 III 例には T. A. F. の注射，龜頭結核疹には Radium 療法，丘疹性壞疽性結核疹には太陽燈照射を行ひ，驅微療法をも使用し著效を認む。

睪丸腫瘍の 1 例

須 賀 清 次 郎 (岡大皮)

28 歳の男子にて觀察したる左側睪丸腫瘍に就き述ぶ。組織的檢索の結果 Dysgerminoma testis (Seminom) であつた。剔出腫瘍は 150 g，睪丸，副睪丸共に侵されてゐたが精系は異常なし。轉移は認められなかつた。

膀胱結核症に於けるフロイデンベルグ

氏傾線 岡 崎 正 敏 (岡大皮)

一般に膀胱結核は腎臟結核に續發して罹患側の輸尿管口附近に病變が初發し，次第に周圍膀胱壁に進展するから一般に罹患腎側の膀胱半球は健腎

側の半球よりも病變甚だしく，且浸潤の爲めに膀胱壁の擴張性を失ふ，故に膀胱内に造影剤を送入充盈する時は膀胱病變部は不平等に擴張す，此時薦骨中線と恥骨縫合とを連續して中心線とし，それより左右の膀胱像縁迄の距離を比較すると罹患腎側では健腎側に比して明かに擴張不充分で距離短かく，且其處の周縁が直線狀に斜走す，これをフロイデンベルグは膀胱結核症の特殊なる斜傾線と稱せり。演者は最近 5 例の膀胱結核症の患者に 5% Na₂J 液を送入充盈しフロイデンベルグ氏斜傾線と一致せる例を経験せるを以て此處に報告せり。

追 加 根 岸 教 授

膀胱粘膜の變化高度にして「輸尿管カテリヌムス」等の検査法により腎患側を決定し得ざる時本現象は補助診斷法として有效なる法なるを追加す。

性病に関する統計的觀察

根岸 博，黒山 眞吾
 湊 次郎，下村 利雄 (岡大皮)
 勝山 英昌

原著として發表の豫定。

追 加 根 岸 教 授

馬蹄鐵腎の 1 例に就て

江 原 敏 夫 (岡大皮)

患者八幡某男 38 歳。主訴 下腹部の壓迫感及び軽度の血尿，局所所見。右腎下極は略ぼ臍高に達し，左腎下極はこれより約 1 横指下位にあり，其の位置稍々正中線に轉移し臍部を横行して右腎下極に達す。分尿；右，蛋白(+)赤血球(+)白血球(-)細菌(-) 左，蛋白(+)赤血球(+)白血球(-)細菌(-)，レ線「フィルム」示説せり。

稀有なる莖膜内游走體の1例

和田 雅之 (岡大皮)

近く岡醫誌に原著として發表すべし。

追加 根岸 教授

莖膜内游走體の1例を追加す。米粒大扁平灰白色の結石にして陰囊水腫を併發せず。

尿瘻孔内結石の1例

和田 雅之 (岡大皮)

尿道狭窄手術後會陰部に尿瘻を生じたる患者にして膀胱結石(鶏卵大より稍々小なるもの1箇及び膀胱憩室内に2箇)を併有せる例にして會陰部尿瘻開口部附近に小指頭大橢圓形の結石を有せる症例を報告し結石の實物及び瘻孔附近の寫眞を供覽せり。

蒼鉛劑の吸収竝に排泄に關する研究

(第5報) 石 天之樞 (岡大皮)

原著として岡山醫學會雜誌に發表の豫定。

珊瑚樹狀腎結石發生機轉に關する1考

察 橋 英基 (岡大皮)

結石標本及び Röntgenfilm を供覽し、何故に該結石が腎上、中部腎盂に於て發達速かにして、下極腎盂に於ては遅々たるかに就き種々なる考察を試みたり。

追加 根岸 教授

珊瑚樹狀結石成因に關する1見解を述べ。

「Sulfonamid 劑」に依る血中竝に皮膚内に於ける「ビタミンC」の消長に關する研究。(第4報)

伊 藤 誠 爾 (岡大皮)

追て原著として岡山醫學會雜誌に發表の豫定。

癩患者の指紋に就て (第1報)

青 山 信 彦 (大 島)

大島療養所入所患者中指紋採集可能の患者 312 名(結節癩 255, 神經癩 52, 斑紋癩 5)に就き指紋の統計的觀察を行ひ次表の如き結果を得。尙ほ表中指紋種類不明とあるは指頭の乳嘴線不明となれる者にして結節癩患者に最も多きは興味ある事實なり。(表略)。

癩性結節狀黃色腫

保 田 耕 (光明園)

嘗て癩性眼瞼黃色腫に就て述べたるも其の後の檢索により黃色腫 36 例中 2 例の結節狀黃色腫を見たり、何れも結節癩吸收期のものにして1例は眼瞼扁平黃色腫に合併して頸部、頸部、肩胛部に見られ、他は前額側、頭部、頸部、項部に見らる鮮黃色乃至淡褐色の境界鮮明なる小結節にして球形腫瘍狀に隆起す後者の病理組織的所見は大體扁平黃色腫の高度なるものにして腫瘍組織は殆ど真皮の全層を占むるに至り、結締織性被膜を以て囊狀に圍まる其の内部は多數の泡沫狀細胞の網狀群集にして其の原形質内は「リポイド顆粒」にて充満す腫瘍周圍にも亦諸所に泡沫狀細胞の小群を見る、癩菌は減少し泡沫狀組織内には極めて少數に見せらるのみ扁平腫と同様癩細胞浸潤より生起せしものなるを知る。

癩の經過に對する1考按

守 屋 陸 夫 (大 島)

癩患者に發生したる癩性斑紋又は癩性神經肥厚等の癩性病狀にして何等治療を加へずこれを放置するも自然に吸收消失して輕快することあるは屢々經驗する事實なり。又大島療養所癩系患兒童保育所收容の兒童にして幼時癩性斑紋の證明されし者にして其の後自然に輕快治癒し何等健康者と變らずして經過しつつある男女各1名の兒童の存在するを見たり。今回余は某縣下癩患家訪問に際して明治 35 年に癩を發病し何等治療を加へざるも現在に於ては僅の後遺症を認むるも癩性症狀は毫も證明する事を得ず自然治癒を嘗みたりと認

めらるる73歳の1男子を経験したるを以て其の詳細をここに報告せんとす。

追 加 田 尻 (愛生園)

某縣某村落に癩患者を検診した際20年位前に手筋の萎縮を來し其の後何等の症状の増悪なき婦人患者で精細に検診して癩なる事を認められた。其の後検診、療養所收容患者中にもかく長年月に互り病狀不變の症状を示す患者を見る事がある。守屋氏の様に長年月の正確な記録があることは確かに癩は自然治癒の傾向を有することを示してゐるもので興味があると思はれる。

追 加 森 岡 (高松)

約20箇年前より右側尺骨神経の麻痺、手指の彎曲、知覺麻痺ある男子を見たが其の後約18箇年間に互つて右前腕の萎縮の外に特種の變化を見なかつたこの間1度患側に「フレグモネ」を起したので局麻なくして手術し得たが80餘で死亡した。

「グレプチオン」の癩性結節性紅斑に對

する効果 早 田 皓 (愛生園)

演者は本症21例に「グルタチオン」製剤の「グレプチオン」を試用し、其の有効なるを認め増悪又は副作用なしと報告せり。

2—3 興味ある癩眼臨牀例

内 田 守 (愛生園)

1) 23歳男子に於て癩性上眼窠神経炎に併發せる結膜炎と 2) 48歳男子に於ける癩性「パンヌス」と老人環とを併有せる例に就き興味ある報告をせり。

癩と妊娠 田 尻 敢 (愛生園)

愛生園收容女患者400名中妊娠経験あるもの176名に付き妊娠出産と其の影響に就て統計的觀察をなし、興味ある報告をなせり。

質 問 野 島 (大島)

妊娠流血中の癩菌に及ぼす影響を調査せしや、

今までの「アンチフォルミン法」で調査せる時でも結節癩で陰性なりし人も妊娠すると陽性になる例が非常に多かつたが若し難波氏法にて調査せしならば更に確實なる成績を得られはしないか、調査の上發表願ひ度い。

微毒血清反應に對する「バグノン」の影

響に就て 大 道 峰 雄 (岡大皮)

原著として近く岡山醫學會雜誌に發表の豫定なり。

興味ある囊狀腺様上皮腫に就て

西 川 規 夫 (岡大皮)

著者は14歳の白癩患者に於て其の鼻部に多數累々と發生せる馬鈴薯大、馬鈴薯標腫瘍ある患者に就き述べ組織的検査の結果これが囊狀腺様上皮腫なりし稀有なる1例に就き報告せり。

尿道結石及び膀胱結石の1例

桃 井 寛 次 (姫路)

19歳女、12歳頃より排尿困難なりしが近時益々激しく常に流出の状態なりき。尿道切開により、長さ5cm、幅4cm、厚さ2cmの結石を摘出尿道結石としては非常に大なり、尙ほ膀胱結石を摘出す。

經尿道攝護腺治療に就て

中 西 正 男 (岡山)

攝護腺肥大症に對する「パンエンドスコープ」による焼灼法は危険なく優秀なる治療法であるが、手術後の合併症として膀胱炎、急性腎盂輸尿管炎を屢々経験し特に續發性腎膿腫、尿毒症を惹起せる例あり、要は局所的療法は勿論重要な治療上の要素であるが好結果を得るためには寧ろ患者が老人である事を念頭に置き全身的治療法を主眼とする必要を説けり。

追 加 根 岸 教 授

攝護腺肥大症の電氣燒灼療法は其の前處置及び後療法に慎重なる注意を要すべき事を追加す。

結核腎の位置及び大きさと觸診との關係に就て 根 岸, 江 原 (岡大皮) 追つて原著として發表の豫定なり。

腋臭症に對する注射治験例

立 花 岩 吉 (岡 山)

男子2名, 女子2名の該症に對し「イヨレン」腋皮下注射により 1) 注射後30分—1時間後局所に相當の疼痛を認む。 2) 注射局所に軽度の硬結を残す事あるも上肢の運動障礙を起せし事なく他の副作用を認めず。 3) 腋臭は2—3回の注射後著明に減退せるを認む。

乳糜尿治験例

坪 井 賢 次 (廣 島)

第1例 45歳男子, 患側左腎, 20% Natr. J. 10cc 3回注入後症候頗る輕快せるも全治せず, 0.5%—1.0% AgNO₃ 腎盂注入2回にして全治, 再發なし。第2例 62歳男, 第3例 40歳女, 前記同様虚置に6—7回にして全治せり, 但し第3例は約6箇月後再發せり。

輸尿管結石治験例

坪 井 賢 次 (廣 島)

骨盤部に嵌頓せる輸尿管結石を保存的療法即ち「輸尿管カテーテル」により Glycerin 注入 (5—10cc) により自然排出せる例を述べ之等のレントゲン像を供覽せり。結石の大なるものは3.5cm×0.5×1.0, 250mgあり, 成分は全部碳酸鹽石なりき。

肛門瘻瘻症の治験例

平 松 直 (岡 山)

演者は頑固なる肛門瘻瘻症に, 局所の皮膚末梢神経の破壊の目的を以て「ヨナルシン」を注射し全快せしめたる2例に就て報告し且該劑は局所に可及的淺表的に注射するを要すと。

無尿を來せる腎盂及び輸尿管の「チヌチン結石」の1例

渡 邊 清 一 (高 松 日 赤)

20歳男子, レ線撮影に於て左側は第4腰椎の高さに於て扁豆乃至米粒大結石像數箇, 右側は第3腰椎の高さに於て腎盂に2箇拇指頭大のものT字型に嵌入せるを認めたり, 保存的療法により右側の結石流出後右側腎切開手術により, 美麗なる黃褐色の「チヌチン結石」2箇を摘出せり。分析の結果極く少量のNa, Ca, NH₄を含みしが殆ど純粹の「チヌチン結石」と云へるならん。

癩の診斷に關する2—3の實例に就て

野 島 泰 治 (大 島)

癩の診斷決定宣告は昔から死刑の宣告に例へられ, 本人自身肉體的, 精神的に他に類のない程絶望の底に墜落することは勿論, 其の血縁者に及ぼす影響の極めて大なること更に對社會的に色々深刻な問題を起すことは他の如何なる疾病と雖も癩に及ぶものはない。ために臨牀經驗多くなればなる程其の診斷に就ては一層の重大性と益々慎重なることを痛感するものである, 演者は其の診斷が對社會的に色々な問題を起せし實例に就て述べたものである。

鼠蹊淋巴肉芽腫の治験特に其の非觀血的治療に就て

森 岡 雄 太 郎 (高 松)

演者は該症7例に於てStibnal隔日靜脈注射とTherapol 毎日1.5—2.0内服により非觀血的に且全経過日数を著しく短縮せしめ得た事を報告し併せて退試を乞ひたり。

質 問 前 田 哲 夫 (玉造船所病院)

鼠蹊淋巴肉芽腫の診斷の根據如何。

2—3 興味ある臨牀例供覽

根 岸 博 (岡大皮)